

## 平成28年度第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成28年度第2回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成28年11月7日(月)午後3時00分～4時00分

3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室F

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名

金子馨委員長、成田篤彦副委員長、椛山林継委員、川戸貴史委員、

島立理子委員、實形裕介委員、石井良幸委員、山口芳一委員

教育委員会事務局7名

高澤茂夫教育長、堀切由彦教育部長、齊藤良二教育部次長、山口玲子文化課長、

小高幸男主幹、中能隆主幹、寺原進主事

5. 議題及び公開又は非公開の別

議題1 著作物利用に関する覚書について(公開)

議題2 執筆要項について(公開)

報告1 「木更津市史編さんだより」創刊号の発行(公開)

報告2 平成28年度木更津市史編さん事業公開講座の開催(公開)

6. 傍聴人 なし

事務局(小高主幹)

定刻になりましたので、ただいまから本年度第2回木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行は、文化課小高が務めさせていただきます。よろしくお願いたします。なお、三浦副委員長および池田委員より、欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。また、会議は公開で行ないません。ご了承下さい。

はじめに、高澤教育長よりごあいさつ申し上げます。

高澤教育長 大変お忙しい中、委員の皆さまにはご出席いただきありがとうございます。現在、市史編集部会で調査を進めておりますが、調査を進めるにつれて今まで表に出てこなかった木更津の歴史や自然を含めた地誌等が明らかになってくるのではないかと思います。第1回目の編集委員会の中では、著作権の取り扱いと執筆要項について協議いただきました。特に著作権の取り扱いについて、市と執筆者との間で覚書を交わすということでご理解いただきました。本日は、もう一度検証した内容について改めてご説明いたしますので、忌憚ないご意見をいただき、十分にご審議をお願いします。

事務局（小高主幹）

金子委員長よりご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長　ご出席いただきありがとうございます。今、私たちがつくりました「市史編集基本構想及び基本方針」に基づき各専門部会で調査をされているわけですが、本日は、前回の委員会の中で協議した内容について、もう少し検討していただきたいので、皆さまご意見・ご検討ください。

事務局（小高主幹）

ありがとうございました。会議に入る前に資料確認をお願いいたします。

（資料確認）

それでは、議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を金子委員長をお願いいたします。

金子委員長　これより、議長を務めさせていただきます。本日は、二つの議題が事務局から提出されております。いずれも前回の編集委員会に提出されたもので、継続協議ということになります。はじめに、議題 1 の「著作物利用に関する覚書」について、事務局の説明をお願いします。

事務局（寺原主事）

「著作物利用に関する覚書」ですが、修正点のみ説明いたします。議題資料の 2 ページをご覧ください。前回の市史編集委員会において、当該著作物に関する取扱については市と執筆者との間で「覚書」を交わすということでご了承いただきました。委員会終了後、事務局において再度検討し、第 10 条（本件著作物の転載等）の規定について修正をはかるものです。

前回は『木更津市史』本編の刊行前と、刊行後の取扱いについて項目を分けておりましたが、これを一つの条文に修正しております。理由は、第 2 項で示していた『木更津市史』刊行後の転載について、市史刊行の周知を促進するには 1 年間の転載制限を設けない方がよいと見直したことによります。そして、刊行前の公表と同様、事前承諾のみに修正しております。私からは、以上です。

金子委員長　ありがとうございます。只今、事務局から議題 1 について説明がありました。このことについて、ご意見願います。

梶山委員　基本的には、これでいいと思います。

實形委員　（執筆者が）利用するにあたり、どういう場合があるかを想定しておくことが大切になってくる。特に今は Web 上で出すことが多くなってくると思うので、無秩序に出てしまう反面があります。ただ広く知ってもらおうとしたらそちら（Web）のほうがいいと思いますので、その辺りとの兼ね合いを自治体史で利

用にあたってどういう事例があるか集めておくといいかもしれないと思います。

中には丸々転載する人も出てくるかもしれないので、この場合は大変困ります。

成田副委員長 (市史が) 刊行されたあとで転載するときよりも、刊行される前に他の場所で公表するときのほうが気をつけなければならないと思います。

金子委員長 活発なご意見ありがとうございました。事務局は、本日の意見を踏まえながら必要な事務を進めてください。

事務局 (山口文化課長)

承知いたしました。

金子委員長 次に、議題 2 の「執筆要項について」事務局の説明をお願いします。

事務局 (寺原主事)

執筆要項のうち修正したのは資料 11 ページの(1)木更津市史執筆要項と、資料 5 ページの(2)木更津市史研究執筆要項です。下線を付した部分が修正箇所です。

まず(1)木更津市史執筆要項については、第 4 項 (体裁) で示した版組みを「通史編」「史料編」など、それぞれの編ごとで規定するようにしました。このうち「考古編」については、発掘調査報告書等の体裁は横組が多いので、これにならっております。文字数は縦組の 3 段組は 1449 字、2 段組は 1472 字、横組は 1470 字と、縦組の 3 段組が一番少なくなっております。3 段組みとしたのは、前回の市史編集委員会で説明したように『図説 木更津のあゆみ』と同じ体裁にして統一を図ろうとしたことによります。参考資料 11 ページが 3 段組みの割付用紙、12 ページは文章と図版を入れた見本で、13 ページは 2 段組の割付用紙、14 ページは文章と図版を入れた見本です。また横組の割付用紙は参考資料の 15 ページに、その見本が 16 ページになります。あわせてご参照ください。

次に、(2)市史研究執筆要項ですが、第 3 項 (体裁) で、縦組みの行数を 23 行から 25 行に修正しております。これは他の自治体が発行する『市史研究』を参考にしております。割付用紙は参考資料の 17 ページに、文章と図版を入れた見本は 18 ページになります。残る公開講座記録集ですが、この執筆要項の修正はありません。割付用紙を参考資料の 19 ページに、その見本は 20 ページになります。

なお、前回の編集委員会で質問のありました版の大きさ及び文体についてですが、本市図書館所蔵の自治体史を調べたところ、まず版の大きさについては『市史研究』もあわせ A5 版は 58% (138/238)、B5 版は 29% (70/238)、A4 版は 13% (30/238) です。A5 版が過半数を占めておりますが、1 頁の文

字数は少なく、掲載図版も小さくなり、1冊の総頁数が増えます。また本の背幅は厚くなり、頻繁に開くページから破損する恐れがあります。B5版及びA4版であれば、図版も多く掲載できます。事務局といたしましては、『図説 木更津のあゆみ』と同じA4版で統一を図りたいと考えております。

次に文体については、ほとんど「である調」となっており、「です、ます調」は6%（15/238）で、講演会記録や聴き取り調査報告などです。このことから、文体は「である調」とします。皆さまからのご意見をお願いします。私からは以上です。

金子委員長      ありがとうございます。事務局から議題2について説明がありましたが、一つ一つ進めたいと思います。木更津市史執筆要項（案）についてご意見願います。

實形委員          「通史編」の割付で3段組を提示していただいておりますが、現在刊行されている最新のA4版だとどこか出しているところはありませんか。よく見られるのは2段組が多いと思います。

事務局（小高主幹）

A4版も少ないことと、確認した中では3段組は一つもありません。

實形委員          『千葉県史』でも『民俗編』などは大きい版になっていますが、2段組です。確かにA4版のほうが活字は大きくなることと、写真などを多く入れられるのでA4版でいいと思います。普及版の『図説 木更津のあゆみ』のときに読みやすくするというので3段組にしましたが、2段組の見本をみると、2段組でもいいような気がします。おそらく「史料編」と「通史編」で組み方を検討する必要があります。

梶山委員          （参考資料）12ページと14ページを比較すると、2段組のほうが見やすい。

島立委員          私たちは多分2段組のほうが読みやすいと思いますが、一般の方たちは、文字が少ないほうが読みやすいというのが私の経験です。誰をターゲットに読んでいただくかも考えてもらいたい。3段組は改行が多いので文献とか入れにくいのですが、一般の方が読むときは読みやすいと思います。「史料編」については、ある程度専門の方が読むと思うので2段組で問題ない。「通史編」はどうすればよいか考える必要があります。

事務局（小高主幹）

2段組と3段組を比較して文章の読みやすいかどうかもありますが、余白の違いも出てきて、これが文字数の差に現れています。そういった意味では1行の中で3段組は2段組に比べて余り長く書けない。このことから、3段組は、

より簡潔に書いたほうが体裁はすっきりすると思います。また、「木更津市史編集基本構想及び基本方針」の中で示したように、図版等については多く載せたいということと、市民を対象に読みやすいものにするとしておりますので、それを踏まえながら 2 段組あるいは 3 段組にするかご検討いただきたい。

山口委員 『図説 木更津のあゆみ』を見慣れているため、「通史編」については 3 段組でもいいのではないかと思います。最終的には見ていただく人の見やすさ、読みやすさになります。版の大きさは A4 版、文体は「である調」でいいと思います。

成田副委員長 読みやすさは 3 段組だと思いますが、写真や図版を入れるとしたら 2 段組のほうが組みやすいのですか。

梶山委員 3 段組は辞典的な体裁になる雰囲気がある。図版はカラーだけになるのか、カラーが多くなるのか。

事務局（小高主幹）

カラーの割合は決めておりません。

梶山委員 最近のものはカラーが多いですか。

事務局（小高主幹）

他の自治体史でカラーを多用しているものを参考にしたいと考えております。

梶山委員 ものによっては大きく図版を入れたほうがいいものがあるでしょうから、2 段組が見やすくなると思います。

島立委員 たとえば 3 段組で、段組みを抜いた図版も出てきますか。

事務局（小高主幹）

あると見込んでおります。『図説 木更津のあゆみ』では 3 段組の体裁に大きい図版を組み込むのに苦慮したので、大きい図版を入れるとしたら 2 段組のほうが組みやすいのは事実です。

實形委員 おそらく編集する段階で写真などをたくさん入れるとすれば、3 段組は版のバランスが悪くなる可能性が出てくると思う。文章の書き方にも影響がでてくるのではないか。A 版にした場合は見やすいのですが、厚くなると重くなってしまふ。県史でもありましたが、「考古編」などは辞書のように分厚くなってしまい持てなくなってしまった。ちょうどいいページ数も考えなければならないと思います。

石井委員 読むほうの立場でみたとき、特に若い世代はネット社会ですから、携帯電話などの小さな画面で表示されるニュースのテーマは 13 文字前後です。非常にセンテンスの短い文章になっていて、その中でいかに印象づけるかが今のネッ

ト社会での文章のあり方の方です。そうすると、この 3 段組で文字数の少ないほうが若い人達には受け入れられるのではないかと感じます。

川戸委員 主観的には 2 段組のほうが見慣れています、3 段組のメリットを聞いていると確かにそのとおりだとも思います。バランス的にどっちがいいのか、参考資料を見た限りでは甲乙付けがたいところです。これは今決めると、もう変えられないものですか。

事務局（小高主幹）

歴史系のは「史料編」を刊行して、その次に「通史編」を刊行します。執筆要項については本日の市史編集委員会で決め、編さんの中で必要に応じて随時修正を図りたいと考えております。

川戸委員 これから市史を編さんする中で、執筆者の側からどちらがいいという意見が出てくると思いますが、その点を踏まえて今決めるのも良いのですが、もう少し先で決めるということでもよろしいのではないのでしょうか。

實形委員 現状は、オーソドックスな 2 段組にしておいて、「通史編」が出るときに見易さを考えて、文章の読みやすさを『図説 木更津のあゆみ』までするのか、もう少し難しくてもいいとするのか。『図説 木更津のあゆみ』は普及版として作ったもので、それに「通史編」をあわせるというのは、かなり厳しいところがあります。「史料編」の内容を文章にして、歴史の流れをわかるようにするのが「通史編」なので、平易な文章で説明をすっきりさせるのはかなり難しい。読み手になる市民がどういうものを求めているのかまだわからない状態なので。ただ、余りそれにあわせてしまうと厳しいところもあります。

事務局（小高主幹）

事務局といたしましては方向性を定めていきたい。現段階で 2 段組或いは 3 段組かを決めたいところです。

金子委員長 皆さんの意見を伺い、決めたいと思います。

島立委員 「通史編」について決めるということですね。

金子委員長 はい。

(3 段組多数)

金子委員長 皆さんの意見では 3 段組が多いということで、よろしいですか。

事務局（小高主幹）

皆さんの意見を踏まえ、ここでは「通史編」を 3 段組としますが、先ほども話しましたように「史料編」を刊行し、計画の中では 3 年から 5 年あとに「通史編」を刊行する予定でございますので、執筆者や市史編集委員会委員の皆さま

まの意見を伺いながら編集を進めてまいります。

梶山委員　　もう一つ。「通史編」の割付見本の中に図版や表の下に注記がありますが、この注記はある程度あったほうが良いと思うので、そういうことも考えてやってもらいたい。これは「通史編」の目玉になると思うし、説明書きがあれば親切。

事務局（小高主幹）

承知いたしました。

金子委員長　　(1)木更津市史執筆要項については、以上のとおりお願いします。次に(2)木更津市史研究執筆要項について意見がありましたらお願いします。

梶山委員　　今はもう（自治体は）A版が普通じゃないかと思うが、昔みたいにA5版もあるだろうけど、木更津市の場合はどうなっていますか。

事務局（堀切部長）

現在は、A4版になっております。（文書規程で公文書の版の大きさは定めていないものの、平成7年6月より県にならいA版。）

梶山委員　　それなら、私はA4版でいいと思います。

事務局（小高主幹）

本日用意した他の自治体が発行した市史研究は、県内ではA5版が多くなっております。その他はB5版とA4版になっております。自治体の公文書はA4版になっておりますので、それに合わせるならA4版になります。

金子委員長　　それでは、『木更津市史研究』の版の大きさは要項（案）のとおりA4版でよろしいですか。

〈異議なし〉

金子委員長　　それでは、活発なご意見ありがとうございました。事務局は、本日の意見を踏まえながら必要な事務を進めてください。

事務局（山口文化課長）

承知いたしました。

金子委員長　　議題は以上で終わりですが、その他二つの報告事項があるということで、事務局より一括で報告願います。

事務局（山口文化課長）

※『木更津市史編さんだより』創刊号および木更津市史編さん事業公開講座開催に関する報告

金子委員長　　ただ今、報告事項がありましたが、質問などがございましたらお願いします。

梶山委員　　市民に対して（市史編さんは）何をしているのか、1年に一度でも出しておくことが大切。そうすると、あとで自分たちの経過を見るときに早い。経過が

わかるようなものを入れておくことと、成果を入れながら市民が見てくれるようにしておくというほうが良いと思います。

成田副委員長 『木更津市史編さんだより』は、どのように配布していますか。

事務局（山口文化課長）

市のホームページに掲載したほか、文化課窓口、博物館、図書館、公民館や小中学校に配布しております。

實形委員 これ（木更津市史編さんだより）をだんだん充実させていってほしい。今回の内容だけではなく、コラムや新発見の資料紹介などを掲載してほしい。『木更津市史研究』まではいかない資料紹介を『木更津市史編さんだより』に入れられればと思います。

金子委員長 皆さんからの活発なご意見ありがとうございました。ここで議長の職を解かせていただきます。

事務局（山口文化課長）

金子委員長、ありがとうございました。これを持ちまして、第2回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。次の市史編集委員会の開催につきましては、日程が決まり次第ご案内いたします。本日は、皆さまありがとうございました。

平成28年11月7日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子馨